

- 東北、関東、北陸地方整備局をはじめ、全国の地整等から派遣したTEC-FORCE(10/10~12/27 のべ30,513人・日)が、東日本の34都道県303市町村の自治体において被災地支援活動を実施。最大 748人(10/23)の隊員を派遣。派遣規模が過去最大。
- 防災ヘリや、ドローンなどを活用し、自治体所管施設の公共土木施設の被災状況調査を迅速に実施。激甚災害の指定(10月29日閣議決定)にも貢献。
- 台風上陸前から浸水被害に備えて排水ポンプ車を派遣し、災害発生後は速やかに排水活動を開始。最大時には、全国から約200台の排水ポンプ車を派遣、24時間体制で緊急排水し、10月中に浸水を概ね解消。
- 路面清掃車等を派遣し建設企業と一体となり市街地や道路等に堆積した土砂撤去を支援。
- 散水車による断水地域での給水活動や隊員による支援ニーズの把握等、被災地の生活を支援。



防災ヘリによる千曲川上空の浸水調査
(長野県長野市)



道路路肩付近の被災状況調査
(茨城県常陸太田市)



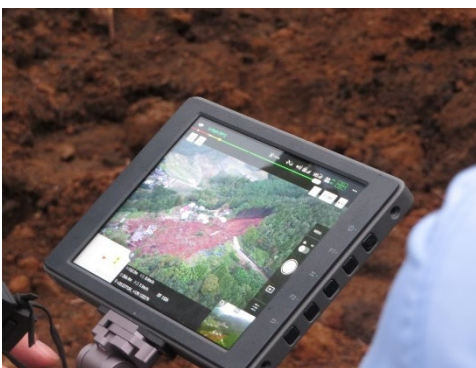
排水ポンプ車による24時間体制の緊急排水
(長野県飯山市)



協力企業と一体となった堆積土砂の撤去
(長野県長野市)



河川の護岸と歩道の流出状況を調査
(千葉県朝倉市)



ドローンにより上空から崩落実態の調査
(神奈川県相模原市)



被災状況調査結果を自治体に報告
(群馬県嬭恋村)



散水車による被災地での給水活動
(宮城県丸森町)